

フレイル予防と対策について

佐久間 儀郎



〔質問〕白石市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の一体的計画素案が示された。

高齢者福祉は、健康寿命の延伸を最重要目標にすべきと考える。

本市の平均寿命と健康寿命との年齢差を伺う。

〔答弁〕長寿課長「宮城県健康データによると、本市の令和2年の男性の平均寿命は80.98歳、健康寿命が79.34歳で年齢差は1.65歳。女性の平均寿命は87.72歳、健康寿命が83.99歳で年齢差は3.73歳である。

〔質問〕計画素案の67ページでは、「高齢者自身

が担い手となる活動の場や住民主体の通いの場の創設、担い手の養成に取り組み、フレイル予防と人材育成を図る。」としているが、具体手法を伺う。

〔答弁〕長寿課長「体組成計を導入し、いきいき百歳体操通いの場で利用。養成講座修了者は支援者として活躍いただいている。

〔質問〕健康と要介護の間の虚弱な状態と言われるフレイル予防には、健康長寿のためにも「栄養、社会活動、運動」の三つが重要と言われる。東京大学高齢社会総合研究機構長 飯島勝矢教授提唱の「フレイル予防ハンドブック」「フレイルサポーター養成テキスト」「フレイルトレー

ナー養成テキスト」を活用して、人材育成とともにフレイルチェックを市民運動に高めるべきと考える。全国100を超える自治体で導入、実施されているが、所見を伺う。

〔答弁〕市長「本市はフレイルなどの高齢者の特性を踏まえ、健康状態を総合的に把握する目的から、「健康状態、心の健康状態、食習慣、口腔機能、体変化、運動・転倒、認知機能、喫煙、社会参加、ソーシャルサポート」の10の分野の質問を用いて調査。フレイル状態の高齢者を適切な医療および介護サービスへつなげることに

により、フレイル予防、疾病予防および重症化予防を促進することを目指し、健康寿命の延伸につながることを目標としている。

〔その他の質問〕

◎地域ヘルパースタッフ

災害発生時の要支援者対策について

佐久間 順子



〔質問〕避難行動要支援者名簿は、要支援者であれば同意のない方も名簿を関係機関に配布している場合もある。

本市ではどのように運用しているか伺う。

〔答弁〕保健福祉部長「災害対策基本法により、緊急事態に限って自治会長、民生委員・児童委員のほか、警察署、消防署、消防団等の避難支援等関係者に対して避難行動要支援者名簿を提供する運用となっている。

〔質問〕個別避難計画の作成向上のために、どのようなことを実施しているか伺う。

〔答弁〕保健福祉部長「広報紙やホームページ等に掲載したり、今後、障害者手帳や要介護認定の申請者にチラシを配布するなど、作成率の向上につながるよう努めていく。

〔質問〕一般の指定避難所での避難生活が困難な要支援者については、個人の判断で直接避難できるのか。福祉団体等と福祉避難所と連携なども図られているのか伺う。

〔答弁〕市長「要支援者の避難を受け入れていただけるよう、市内に福祉施設や介護老人保健施設等を持つ福祉法人や医療法人等10団体と、災害時における避難行動要支援者の受け入れ等の協力に関する協定

を既に締結している。二次的な避難所として、施設入所が適切であると判断される場合、各施設の受け入れ状況を確認した上で移送する体制となっている。

〔質問〕避難行動要支援者名簿および個別避難計画、要支援者対策の課題や今後の方針について伺う。

〔答弁〕市長「避難行動要支援者名簿の個別避難計画は避難支援対策の一つであり、「自助・互助・近助」が非常に大切であると考える。災害を他人事ではなく自分事として捉え、減災意識を高め、自治会や自主防災組織、民生委員、児童委員と連携しながら、地区で避難行動要支援者の状況や地域の実情に応じた支援が円滑に受けられるよう、計画の作成を支援していく。

を既に締結している。二次的な避難所として、施設入所が適切であると判断される場合、各施設の受け入れ状況を確認した上で移送する体制となっている。